



機関誌「清流」発行50号を迎えました

清流会会長 山口 勝 英 (高15回)



会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は清流会活動にあたたかいご理解とご支援を賜り誠に有り難うございます。厚くお礼を申し上げます。

見やすく読んでいただける清流を目指し数年前から検討していましたが、予算や原稿収集の目途が立ち今回からカラー発行に踏み切りました。綺麗な紙面になりましたので多くの皆様からの投稿をお待ちしています。ご担当頂きました文化委員会の皆さんご苦労さまでした。

《高校70回生入学式に参列しました》
新しい制服、真っ白い体育館シューズ、緊張した姿で入場してくる新入生、一人ずつ名前を呼ばれて起立する姿に55年前の自分を思い出し、新入生代表挨拶や校歌斉唱の頃になるとその姿に感動し涙が止まらなくなりました。新入生360名の内、女子が約6割を占めていたこと、参列されている父兄が新入生の倍以上（私が見た目ですが）居られたことに時代の変化を感じました。本年は学区改編により加印学区に加えて明石・北播学区が加わり、より広いエリアからの生徒が入学する初めての入学式であり、地域の優秀校としてますます発展していくことを期待しています。

《「清流」発行50号を記念しカラー化しました》
《本年7月に会員名簿を発行します》
個人情報保護が大切な今日、発行するかどうかも含めて検討し「会員

発行
県立加古川中学校
県立加古川東高校
清流会
編集
清流会文化委員会
印刷
丸山印刷株式会社



母校の近況ご報告



清流会の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

特に昨年度は、九十周年記念事業として、式典の挙行並びに教育環境の整備に対して、山口会長様をはじめ清流会会員の方々にはひとかたならぬご協力・ご支援を賜りましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

さて、平成二十四年度から二期目の指定を受けた文部科学省研究指定のスーパーサイエンスハイスクール事業に（「Challenge The World」をスローガンに、グローバルな視点を持ち、人類の将来に貢献する科学者としての素養を身につけた人材を育成することを目指して

間連絡先の確保無くして同窓会運営は成り立たない、住所録は生命線である」との考えから通し番号を入れ配布先を明確にするなど管理面を充実し、希望者にはメールアドレスを加えより便利で使いやすくして発行することに致しました。ここ毎年、年次同窓会を開催する学年が増えて

きています。また、企業や学術活動に於いて同窓生というだけで非常に親切にして頂いたと言うことも聞きしています。個人情報保護の趣旨をご理解の上この名簿を大いにご活用いただき、同窓生間の絆を深めて頂くことを期待しています。

最後になりますが、同窓会費は「清流」の発行、支部総会・年次同窓会へのお祝い金、在校生や学校への教育環境整備支援に支出しています。無駄が無いよう大切に使用していますので納入よろしくお願い致します。

会員の皆様のご活躍をお祈りし挨拶とさせていただきます。

校長 安本 直

取り組んで参りました。今年度・来年度で成果をまとめ、第三期目の申請に向けての進め方を検討し始めています。

4月下旬には昨年に続き、台湾の国立女子高等学校の研修旅行団の訪問がありました。今年、両校の生徒による英語での研究発表や部活動で交流しましたが、先方は次年度以降も来日しての交流を希望されていますので、プログラムを工夫しながら発展させて参ります。

今春の大学進学実績では、過年度卒業生も含めて、東大一名、京大十七名、阪大二十六名、神大二十四名、国立大医学部医学科五名等、近年希に見るすばらしい結果を残しています。部活動においても、地学部・放送部・将棋部の全国レベルでの活躍等



輝かしい成果をあげています。さて、今春入学した七十回生は、普通科の通学区域が広がって初めて迎えた生徒達となりました。

例年、明石・北播地区から入学する生徒は理数科の十名程でしたが、今年は普通科・理数科を併せて六十名を超えました。

普通科への入学者分が増えただけではなく、理数科への入学者も十数名に増えており、明石・北播にとつてより身近な高校として認識されたものと評価しています。

今後とも、本校の伝統を継承・発展させるとともに特色ある学校づくりを一層進めることで、中学生やその保護者の方に注目される学校でありたいと考えています。

益々のご支援・ご鞭撻をお願いしますと共、会員の皆様のご更なる発展をお祈りします。

委員会からの報告

総務委員会

委員長 鈴木 利信 (高31回)

平成27年清流会新年懇親会は、本年1月9日に恒例の加古川プラザホテルにて、99名という多くの方にご出席いただき盛会に開催できました。

今回は「コーロ・松の風」の皆様にご協力いただき「サボテンの花」など青春時代の曲をコーラスしていただきました。

「会員名簿」が7月初旬に発行されます。名簿の発行にあたり編集作業や協賛広告にご協力いただきました多くの会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

文化委員会

委員長 岩坂 純一郎 (高20回)

山口会長のリーダーシップのもと本部役員会での協議を経て紙面のカラー化に取り組みました。課題は経費がどの程度膨らむのかにありましたが、予算の範囲内に収まり安堵したところです。

紙面構成や編集過程でご支援いただいた(株)八木凸版印刷さまには、結果的に心苦しいことになってしまいました。永年お世話なってきましたことにつき歴代の編集長になり替わりまして心よりお礼申し上げます。

今回は、従来の割付を基本的に踏襲しましたが、新鮮な紙面づくりには新戦力の支援が欠かせません。文化委員会の活動に加わっていただける会員を心待ちにいたしております。

体育委員会

委員長 多木 有一 (高21回)

平成26年度において体育委員会では、次の2つの事業を行いました。

①第112回清流ゴルフ大会を平成27年9月11日加古川ゴルフ倶楽部において、51名の参加を得て開催しました。高瀬昌幸氏(高30回)が優勝されました。おめでとうございます。

②第9回清流会グランドゴルフ大会を平成27年1月9日日岡山公園サッカー場において、新年祝賀会が行われる日に合わせて開催しました。大西将氏(第9回)が優勝されました。おめでとうございます。

平成27年も引き続き2つの事業を行います。

①第113回清流ゴルフ大会を平成27年9月10日(木)加古川ゴルフ倶楽部にて行います。

②第10回清流グランドゴルフ大会を平成28年1月8日(金)に新年祝賀会が行われる日に合わせて開催します。

私は、今回初めてグランドゴルフに参加しました。成績の結果は別として皆さんとの交流ができて楽しい時間をすごしました。思い切って参加したよかったです。

初参加の皆さんを歓迎しています。多数のご参加をお待ちしています。これからもご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成27年度清流会総会のご案内

恒例の総会が近づいてきました。お誘い合わせのうえご出席くださいますようお願い申し上げます。

日時 平成27年8月2日(日) 正午～(受付 11:30～)

会場 加古川プラザホテル 電話 079-421-8877

会費 6,000円

次第 総会、演奏会(合唱部)、懇親会(会食・福引)

- ◎ご出席の方は同封のハガキで7月23日までに返信ください。
- ◎総会の席で米寿・傘寿・古稀・還暦のお祝いをしております。中18回・高7回・高17回・高26回の該当の方々はぜひご出席してください。
- ◎総会前の10時30分から、支部長懇親連絡会を開催しますのでご出席をお願いいたします。

清流会からのお知らせとお願い

地域支部総会・職域支部総会・年次会について

開催されるときは、本部事務局へご連絡をお願いします。会長(代理)がお祝金をお届けし、母校の近況報告をさせていただきます。

年次会の開催にあたっては、案内状発送の便宜を図り、年次会員の宛名シール等を用意いたします(但し有料です。詳しくは事務局まで。)

住所など変更の場合

住所、氏名などに変更が生じたときは事務局へご連絡ください。

お祝いについて

1. 還暦・古稀・傘寿・米寿のお祝いはすべて3,000円とします。(但し、総会出席者のみです)
2. 叙勲・褒章受章は祝電をお送りします。

会員死亡の場合

全会員を対象に弔電をお送りいたしますので、事務局へお知らせください。(香料は差し上げていません)

特別寄付金ご協力をお願い

同窓会費は在校生の部活動の支援にも使わせていただいています。在校生の活躍は同窓生にとっても大きな喜びですが、それなりの費用がかかるのもまた現実問題としてあります。

年次同窓会での余剰金や慶事記念行事の際などにご寄付いただければ幸いです。

会員の皆様に年会費納入のお願いをした上に、誠に心苦しいのですが母校支援のための特別寄付金(金額はいくらでも結構です)のご協力をお願い申し上げます。同封の振込用紙をご利用ください。

但陽信用金庫本店営業部 普通5461365
兵庫県立加古川東高等学校清流会特別寄付 会長 山口 勝英

叙勲・褒章・表彰のお祝い

各界で活躍されている清流会員で、叙勲、褒章、表彰などを受章された方々を祝意を込めて紹介させていただきます。(順不同、敬称略)

全ての情報が必ずしも事務局に寄せられているわけではありませんので、ご紹介できずに失礼していることがあると思います。

今後もご紹介を続ける予定ですので、情報をお寄せ下さるようお願いいたします。

<2014年春の叙勲>

瑞宝小綬章 井元 康裕 (高12回)
農林水産行政事務功勞
元経済局統計情報部構造統計課長
鹿児島市

<2014年秋の叙勲>

瑞宝重光章 北山 元章 (高15回)
裁判官功勞 元福岡高等裁判所長官
東京都世田谷区

瑞宝小綬章 松本 正義 (高14回)
消防
加古川市

旭日双光章 田代 芳信 (高15回)
建築設計監理業振興
高砂市

瑞宝小綬章 田口 京平 (旧校長)
教育
加古川市

瑞宝小綬章 澤田 道春 (中16回)
教育
神奈川県川崎市

<2015年春の褒章>

藍綬褒章 丸山 靖彦 (高10回)
更生保護
加古川市

<2015年春の叙勲>

瑞宝重光章 大谷 正治 (高15回)
裁判官功勞 元大阪高等裁判所判事
神戸市

瑞宝双光章 吉田 久義 (中21回)
労働行政事務
加古川市

公益財団法人 青松会から

理事長 水 埜 安 寛 (高15回)



加古川東高 校には、奨学 金の給付事業 を行う公益財 団法人青松会 があります。

財団法人青松会は昭和50年に教 育新興の要望にこたえて、生徒の 就学援助を行い、その心身の健全 な育成を図ることを目的とする事 として設置されました。

設立以来、基本財産の運用益と 清流会会員の皆様からの寄付によ り、現在まで57名の奨学生に奨学 金の給付を行ってまいりました。 平成24年4月には、公益財団法人 青松会として、兵庫県より認定さ れています。

ところが、低金利の現在では運 用益は毎年必要な就学援助金に満 たない状態が続いています。 幸い、清流会会員の皆様からの 寄付金により奨学金の給付が行わ れています。

多くの清流会会員の皆様に「公 益財団法人青松会」を知っていた だき、加古川東高校の生徒の輝く 未来のために、更なる温かいご支 援をお願いいたします。

*寄附申込書を同封させて頂いて おります。お一人でも多くの方の ご寄附をお待ちしております。

平成26年度 清流会収支決算書

(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

収入の部

決算額-予算額=マイナスの時▲ 単位:円

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Rows include 1. 会費等収入, 2. 雑収入, 3. 前年度繰越, and 合計.

支出の部

決算額-予算額=マイナスの時▲ 単位:円

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Rows include 1. 事務費, 2. 会議費, 3. 事業費, 4. 予備費, 5. 周年事業支出, and 合計.

収入 13,902,904 支出 11,585,081 次年度繰越 2,317,823

周年記念事業等特別会計決算書 (平成27年5月31日) 単位:円

Table with 3 columns: 項目, 金額, 摘要. Rows include 前年度繰越金, 一般会計からの繰入金, 90周年事業残金, 利息, and 合計.

教育助成基金会計報告書 (平成27年5月31日) 単位:円

Table with 3 columns: 項目, 金額, 摘要. Rows include 前年度繰越金, 利息, 支出, and 合計.

公益財団法人 青松会役員

平成27年7月1日

理事長

水埜 安寛 (高15)

副理事長

大庫 俊介 (高19) 岡田 義則 (高23)

専務理事

山田 拓史 (高13)

理事

泉 正紀 (高25) 田中 義人 (高37) 藤本 陽一 (高24) 松本 久美 (高31) 水埜 浩 (高33) 森本 幸吉 (高28) 吉田 実盛 (高32) 脇谷 政孝 (高33)

監事

渋谷 哲 (高18) 三宅 隆宏 (高14)

評議員

石原 浩一 (高31) 籠谷 紘義 (高13) 釜谷 研造 (高2) 土屋 光世 (高27) 十倉 茂明 (高9) 富田 鏡哉 (高8) 福田 博秀 (高16) 宮宅 勇二 (高24) 山口 勝英 (高15) 安本 直 (東高校長)

地域・職域支部だより

●東京支部

150周年の重み

支部長 松井昭憲（高30回）

東京支部では昨年11月14日に、合計150周年の記念総会・懇親会として「同窓生の集い2014」を開催しました。母校創立90周年、次に東京支部創設50周年、おまけに私を含めた役員体制になってから10周年と、90年+50年+10年で150周年であります。この東京支部の新体制の10年間に、延べ220名もの同窓生が集まって頂きました。この累計参加者数は、東京支部の全会員数とほぼ同じであります。また、昨年の記念大会では過去最大の260名の方にご参加頂きました。東京支部が産声を上げたのが昭和39年。初回の参加者が44名と伺っております。支部活動がここまで発展出来たのも先人の努力や本部の指導、



そして今の東京支部の会員のご支援のお蔭と心より感謝申し上げます。

当日はOBゲストスピーカーとして関西から上方講談・旭堂南海師（本名内海浩明氏・高35回）にお越し頂き、「加古中創立物語、加古川の光姫と軍師官兵衛」との演題で会場を大いに盛り上げて頂きました。今年の東京支部の「同窓生の集い」は11月13日（金）の夜に市ヶ谷で開催致します。



さて、今年のOBゲストスピーカーは10年前にも登壇頂いた杉尾秀哉氏（高28回 TBSテレビ報道局解説・専門記者室長）をお願いする予定にしております。会場も昨年からは従来倍の広さにしておりまして、首都圏の方は勿論、加古川在住の方も是非遊びに来てください。開催プログラムが確定しましたら年次幹事の方から正式なご案内をさせていただきます。東京支部のHPでも案内を掲載致します。

では、今後とも東京支部をどうぞ宜しくお願い致します。
（ピムコ・ジャパン・リミテッド会長）

●大阪支部

支部長 山本俊輔（高25回）

平成26年度の大阪清流会総会は、総勢71名の盛会でした。

まずは憲法学者として活躍の渋谷秀樹氏（高25回）による「憲法とは何か」について、東高時代の思い出を交えて講演頂きました。世の中が激動する中、じっくりと憲法について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

次に山口本部長より九十年事業についてお話し頂き、続いて安本校長から、文武に渡る母校後輩の活躍ぶりが近況報告されました。

懇親会では、ラッキー抽選会司会の糟谷千恵子さん、高らかに中学校歌を斉唱された最高齢の伊藤良昭さん（中19回）、そして高校校歌は、ソプラノ歌手の杉原真理子氏（高21回）、バリトン歌手の藤村匡人氏（高35回）など多芸多才な皆様に会を盛り上げていただきました。



●奈良支部

第32回わかかさ会の報告

わかかさ会会長

板倉白雨（高18回）

奈良県清流会支部を「わかかさ会」と言っています。嘗て、支部ができた時の奈良県知事だった鍵田氏が奈良の県色を万葉に因んでと言う触れ込みで若草色を薦めたことに拠ります。だから、奈良市の小学校の校舎や塵集取の車なども若草色をしています。

現在、会員数は110名。とても小さな支部です。オリンピックで名を馳せた天理大柔道を築いた西村先輩が発起人となり、前支部長田中敏夫先輩が廿数年にわたって、家庭的で和やかな今の会を育てました。

今年は、参加人数が大変少なかったです。一つには、酷暑と土砂降り雨という気候の所為か体調不良を訴える方が多く、また例年はお揃いで参加される同窓年度が揃って休まれたり、いつも会を盛り上げる中学卒の大先輩方がお年を理由に次々と欠席され今年はいよいよ一人も参加をいただけなかったりと、結果として今まで一番出席の少ない会になりました。

しかし、今年初めてプロの歌手に来ていただき、参加者にはとても喜んでもらえました。東高校卒業でないのですが、加古川出身の歌手そえんじさんです。なつかしの歌で大いに盛り上がりました。歌はその時代そのものを背負っている様で、高校時代に流行った唄が流れると、一緒に歌いだす方もいて、それぞれ、目は高校時代に帰って若く輝いてい

た様に見えたのは、私の錯覚ではないと思います。
今年も母校から安本校長や谷校内幹事、そして本部から副会長のご参加を賜り会を盛り上げていただきありがとうございます。



●清流会事務局の執務案内●

清流会事務局は、母校内の清流館3階にあります。

古川千恵子さん（高30回）が事務局員として執務しています。

執務日は毎週月曜日と木曜日の午前中です。

TEL：079-421-0373 FAX：079-421-8464

TEL：079-424-2726（緊急時学校）

メールアドレス

kakohigashiseiryukai@topaz.ocn.ne.jp

● 姫路支部

大橋一喜 (高10回)

姫路清流会平成26年度総会は、2月20日(金)18時30分から、姫路みゆき通りの”おもてなしダイニング福亭”において開催いたしました。

清流会本部から山口会長、鹿間副会長、母校から安本校長先生、校内幹事の谷先生がご出席くださり、恩師では三木英一先生が今回も元気なお顔を見せてくださいました。ハリマ業新聞社長の柿本氏もご出席くださいました。参加者総勢36名で、楽しいひと時を過ごすことが出来まし

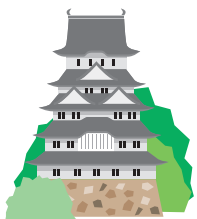


定刻、会長の大橋から「私が高校生の頃は、本日も出席してくれた近藤良三投手を擁して野球が強かった。全校挙げて応援歌を練習したが、その歌詞に、”日岡の山に日は映えて、

培う力30年”と歌ったものだが、昨年10月、母校は”90年”を祝して盛大に記念式典を挙行された。あれから60年も経ったかと感慨深いのが、その記念式典の主役であられた安本校長先生と山口清流会会長のご臨席をいただき、姫路の総会ができるのは光栄でありうれしい。いつもの親しみ深い仲間が揃っているの、今宵ひと時、おいしいお酒をいただき、楽しい語らいをしたい。」と開会を宣言し、「昨年提起した姫路清流会代表の交代につき、高校19回の平田建喜氏がお引き受け下さるとの内諾を得ている」旨報告し、出席会員から拍手で歓迎された。

引き続き、山口清流会会長のご挨拶、安本校長先生の母校近況ご報告の後、総会会務(会計等)を報告し、懇親会に移りました。

懇親会は参加者最高齢の長谷川三夫氏(中学21回)の乾杯ご発声で始まり、たちまち、あちらこちらに話の輪が出来て盛り上がり、途中石見利勝姫路市長の飛び入りのハッピーニングも加わり、あつという間に所定の時間が楽しく過ぎ、次期会長の平田氏の挨拶ののち、校歌斉唱、記念撮影をし、終了しました。



● 明石支部

鈴見豊弘 (高29回)

平成27年の総会は、2月12日に西明石のホテルにて開催しました。本部より山口会長さんや安本校長先生にもお越しいただき、中18回生から高49回生までの54名が参加しました。母校の近況報告や中21回生で全国で12名しかいない地域特産マイスターの橋本正さんから「清水いちご誕生



秘話」と題してこれまでのご苦労と技術開発の秘訣についての話を聞きました。これからの夢についても情熱的に語っていただき、私自身橋本さんから一杯元気をもらいました。また、橋本さんから清水いちごをご提供いただき会場は甘い香りに包まれました。

その後、例年どおりの回生を超えた和やかな懇親となり、最後に恒例の中・高の二つの校歌が高らかに歌われました。

● 稲美支部

支部長 福田恒夫 (高10回)

第26回支部総会を昨年7月6日(日)稲美町コミュニティセンターにおいて開催しました。当日は本部から土屋・鹿間両副会長、母校から藤田事務長と校内幹事の谷先生の臨席を得ました。

第1部は校歌斉唱のあと議事では4議案が全て承認されました。第2部の講演は繁田喜彦(高28)氏が「糶屋の仕事」家業を継いで」について、祖先がタイヘンナ想いで家業を続けてきた時代があったからこそ今があ



ると話されました。第3部の親睦会は井澤本家(井澤孝泰氏高22)のお酒で乾杯。総勢75名が集い、世代を超えて地域の同窓の絆が深まったことを実感できた素晴らしいひとときでした。

● 神戸教職員支部

支部長 松井勝美 (高24回)

総会が平成27年2月27日(金)午後6時30分よりJR神戸駅前の天安閣にて開催されました。

本部からは大西淳滋副会長、鹿間副会長が出席、新任の先生も含め10名参加の支部総会となりました。懇親会の終盤は恒例となつている参加者全員の一言スピーチも行われ、あつという間に楽しい時間が過ぎてしまいました。校歌斉唱、記念撮影の後に閉会しました。



● 県庁支部

支部長 藤田隆司 (高25回)

去る10月1日(水)にホテル北野プラザ六甲荘において、平成26年度の清流会県庁支部総会を開催しました。当日は、来賓として、名誉会員である釜谷研造県議、榎本和夫県議、清流会本部からは、土屋光世副会長、鹿間聖副会長、加古川市からは田湖博之教育長、学校からは安本直校長、鶴飼義人校内幹事の7名に花を添えていただき、約40名が集い、楽しく明るい懇談会となりました。

また、県庁支部の会長、副会長の役員改選も行われ、会長は、高校24回の高井芳朗教育長から高校25回の藤田隆司土地開発公社理事長に引き継がれました。

来賓の心温まるご挨拶や安本校長先生から加古川東高校在校生の文武両道の華々しい活躍についてご報告をいただきました。

ご挨拶では、次期27年度新入生から適用される新通学区域に対する期待や影響、今年開催される創立90周年記念式典などが多く取り上げられました。

同年代の会員が集った各テーブルでは旧交を温めたり、仕事や趣味、



子育てなど悲喜交々の話題で盛り上がり、あつという間に予定の時間を過ぎてしまいました。最後は恒例の参加者全員で校歌斉唱し、同窓の集まりならではの穏やかな雰囲気の中でお開きとなりました。

清流会 ホームページのご案内

<http://seiryu-kai.jp/>

清流会では、ホームページも開設しています。年次会の案内や報告にご利用下さい。会員のトピックス等も歓迎いたします。詳しくは、事務局へ。

Tel : 079-241-0373 (月・木の午前中)

kakohigashiseiryukai @topaz.ocn.co.jp

年次会だより

中18回 平成27年は米寿祝

年次幹事 神吉 稔

毎年開催の中学第18回生同窓会は、平成26年11月20日(木)12時より加古川プラザホテルのボールルームにて開催。恒例の同窓会資料(名簿、物故者、消息不明者、近況等々)の配布写真撮影、幹事の挨拶の後、歓談に入りました。

本年は、参加常連の多木喬郎、北角利之、神吉尚、小林弘明の諸氏の体調不良による欠席があり誠に残念な同窓会であったが、久しぶりに畠百一氏の参加により盛上がり、話題と云えば戦争の申し子の18回生は、予科練や学徒動員の思い出を熱く語り合い、二時間はアツと云う間に過ぎていった。

欠席者の近況報告には、体調不良が多く、入院中や脳梗塞の知らせもあり、いよいよ後期高齢者の段階も超えた感を強く覚えたが、歳相応の楽しみ方も考えて生活する術を身に付けるべく目標設定しなければならぬと実感した。

また、平成27年度の清流会総会の席上、米寿のお祝いがあるので、総会には是非出席して戴きたいと幹事として希望致します。

なお、同窓会出席者は次の通り。井上邦典、大國敏樹、長山晋道、神吉 稔、木下正一、河野昭通、栗

中19・20回 創立90周年を祝って

藤原 正明

旧中19・20回生は、平成26年11月15日、加古川プラザホテル、ボールルームにおいて同窓会を開催。司会の藤原俊幸君の言葉に続き、124名の物故学友に黙祷を捧げ、乾杯の音頭は前夜の東京清流会出席の寺西孝雄君。懇親の宴では、母校の創立90周年を祝う声や、米寿に近付いた心境などが楽しく華やかに話し合われ、途中、詩の暗誦などあり、最後は旧

林茂三、小林和博、近藤 巽、高倉幸七、畠 百一、花榮雄幸



中学校のテープに合わせての合唱。次回の再開を固く約束しながら散会。出席者は21名。全員に伊藤一牛君作の音楽CDが手渡されました。なお、欠席の諸君からは同窓の絆の強さと温かさの籠もった近況・コメントがあり、当日の名簿資料に添えております。

中21・高1回 26年度同窓会

代表世話人 金川 俊成

われわれは「加古中第21回・加古東高第1回」と並記している珍しい学年で、今年11月15日に明石キャッスルプラザホテルに16名が集って同窓会を開いた。

われわれは、前の戦争のころ、勉学よりも軍事教練や農家での勤労奉仕、さらには工軍需工場や尾上飛行場での作業、三木の飛行場づくりなどに汗を流した。

戦後の学制改革により中学5年で卒業したものと新制高校の3年に進み第1回卒業生になったものと分かれた。

卒業後は、わが国の戦後復興と高度経済成長のために頑張ってきた。そういう仲間だから、話題の尽きることがない。ただ加齢には抗えず、近年、黙禱の臉に浮かぶ顔が増えてきている。



高3回 (歴三会) 思えば遠し

年次幹事 畑谷 芊一

戦後70年。3回生は満州事変に生まれた戦中派。昭和20年旧中入学、終戦、共学と、激動の時を過ごした。現在の閉塞感や、捻金？生活の中、生活不活発病に耐えて生きている。

今はもう老骨、まだ老春。「楽しもうぜ」の電話があり、今回も元気印が集まった。先ずは集合写真に収まり出席証明。会食と同時に昔の話に花が咲き、自己紹介の人の話も聞かばこそ、即刻、談論風発。これこそ同窓会の楽しみの一つである。席上、男女の詩吟の朗詠が続いた。

終りに、青春の昭和を振り返って、「故郷の空」を静かに一同で唱和。老けゆく秋、小雨の中を駅頭に急ぐ姿を見かけ「どこまで時雨行く秋ぞ 振音寂し身は悲し」影を慕いて(2番)を口ずさんだ。

本年会は11月8日(日)に開催します。



高9回 半寿のつどい

前田 功

6回生は昨年の「傘寿のつどい」に続いて、今年「半寿のつどい」として、4月21日に同窓会をもった。集まった人数は55名。県内在住の者だけでなく、遠くは埼玉、東京、横浜などから、また大津、京都、岡山からも参加者があり、楽しく交流を深めた。

話題は近況報告は言うまでもないことであるが、やはり高校時代の思

い出に及ぶものが多かった。古い体育館、講堂など、自分たちが青春のころ過ごした学校のたたずまいが、おたがいの心を熱くするのであった。もう61年も前のことであるが、当時の様子が生き生きとよみがえるのである。

残りの人生がどれだけあるかわからないが、同窓会は晩年の人生に青春の灯をとぼす素晴らしい機会となった。おたがいに若さを取りもどし、明日を生きる気力を高め合ったひとときでもあった。



今後予定されている年次会・地域支部の総会など

稲美支部	2015年7月5日	福田恒夫 稲美町立コミュニティセンター
奈良支部	2015年9月6日	板倉白雨
大阪支部	2015年9月26日	山本俊輔
東京支部	2015年11月13日	松井昭憲
明石支部	2016年2月18日	森本真一
姫路支部	2016年2月19日	平田建喜
県庁支部	未定	藤田隆司
神戸教職員支部	未定	松井勝美

高33回	2015年7月11日	加古川プラザホテル
高37回	2015年8月15日	加古川プラザホテル
高14回	2015年9月27日	
中21高20	2015年11月5日	伊藤良昭 グリーンヒルホテル明石
高3回	2015年11月8日	

※掲載もれがありましたらお許しください。なお、次号編集のためにも総会等を開催されましたら、原稿と当日の写真を事務局まで送付くださるようお願いいたします。



高8回

喜寿の同窓会を開催
満喫した但馬探訪

年次幹事 前田 正

高校8回生は、平成26年6月に「喜寿の同窓会」と称して一泊旅行を実施した。行く先は、但馬方面。神鍋高原のブルーリッジホテルを拠点に、但馬の名所をめぐる旅行である。ホテル差し回しのマイクロボスバスでの但馬探訪である。参加者は男性12名、女性11名。

まず第一日目、昼食は但馬名物のむぎと口定食。火山活動の名残り風穴洞にちなんだ風穴庵での食事、椽もちや山菜を添えた但馬ならではのものであった。それからの見学先は但馬大仏。その大きさに感動。その

後鳥取砂丘にある砂の博物館を訪問。見事な砂の芸術のすばらしさに圧倒される。今年のテーマはロシア、歴史と文化を見事に表現した巨大な砂像はいつまでも心に残りそうである。夜は盛大な宴会のあと神鍋高原の夜を彩る源氏ホテルの乱舞を鑑賞、その後ホテルで二次会、カラオケで夜の更けるのも忘れる。二日目は、香住海岸の奇岩を遊覧船で探訪、但馬の銘酒「香住鶴」の工場見学、昼食はホテルのフランス料理、午後は雄大な「猿尾滝」を訪ねる。日本滝百選に選ばれている名勝である。最後の訪問地は瀨川平にある癒しの森、「但馬高原植物園」である。自生植物二千種。

樹齢千年の大カツラと大湧水にし

高9回 後期高齢者になった9回生

代表幹事 十倉 茂明

昭和32年の卒業以来、もう8回になる同窓会だ。今回は『舞子ヴィラ』が会場。毎回出席者は少なくなるが、71名の参加だ。明るい窓の外には明石海峡大橋が美しいアーチを描いていた。4グループに分かれての記念写真。9回生は、このほかに毎初春に有志新春会を開催している50名ぐらゐの参加で、この会は13年連続だ。我々の時代は男女別々のクラス編成、修学旅行も男女が1日違いで出発、今では考えられない。それだけに、集まると全員が《遠い日の春愁の記憶》を取り戻せる、たまらなく懐かしい1日になる。3時間があつという間に終わる。2次会への参加も多い。次回は3年後、開催当番は加古

中だ。..青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。『サムエール・ウルマンの言葉だ。』



ばしの時を忘れる。こうして但馬の自然や文化を満喫した喜寿の同窓会であった。



高28回 6回目の同窓会

芦田 美佐子

5月3日、6名の恩師を含む88名が加古川プラザホテルに集い、28回生同窓会が盛大に行われました。大学卒業10年目に第一回の学年同窓会を開いて以来、地元のメンバーが世話役の中心になり、5年に一度、定期的に開催しており、今回で6回目を数えます。

生徒会長を務めてくれた森本君の挨拶を皮切りに、元音楽教諭杉原さんの指揮による校歌斉唱、恩師の先生方の力強い(叱咤)激励、クラス

高25回 還暦同窓会

大谷 嘉信

平成27年1月3日(土) 17時〜19時に加古川プラザホテル2Fにて、長田進一先生、茨木信行先生をお迎えして総勢105名で第6回加古川東高25回生還暦同窓会を開催しました。この度の同窓会は60歳の節目として65歳に向けてのメッセージを封印したカプセルの製作とワクワク、どきどきを体感して貰う為に全員参加型の同窓会を企画しました。内容は、沖縄ミュージックの癒し系生演奏、全員参加のカチャーシー(沖縄踊り)、ジャンケン大会(商品付)、42年の時空を超えて再現した修学旅行及び文化祭出展作品「青春の詩」のビデオ上映を行い盛会裏に終了しました。



毎の自己紹介、近況報告と時間は飛ぶように過ぎていきました。全国津々浦々から懐かしい顔ぶれが集い、三次会まで笑いあり、ちよつぱりシビアな世の中談義、健康談義ありで会話が尽きることがありませんでした。毎回〇十年ぶりとサプライズな再会があるのも楽しみです。

満60才を迎える年の8月の本部総会、明けて1月の還暦同窓会での再会を誓い、お互いの健康を祈念しつつ散会しました。次回は「目指せ、100越え!!」をスローガンに、また幹事一同、知恵を絞ります。



高30回 3回目の同窓会

古川 千恵子

私たち30回生は3回目の同窓会を1月3日(土)18時半から加古川プラザホテルで開催しました。黒田先生、藤尾先生、市川先生、吉田先生、4名の先生にご参加いただき総勢12名となりました。前回までは3年生のクラス毎の座席だったのですが、男子クラスから女子がないと寂しいとの声があったそう、今回は受付でくじを引いての座席となり、おじさんだけのテーブルはなくおばさんも混ざって楽しく談笑できたようです。

催しに丸山浩之さん(高橋竹仙氏)の津軽三味線と玉野ますみさんのオカリナのコラボ、素敵な演奏で華を添えていただきました。次回は5年後の還暦となる年に開催を約束してお開きに。

150名参加を目指し盛大に行う予定だそうですので、30回生の皆様ぜひご参加ください。



高43回 初めての同窓会!

松村 正夫

「同窓会ってほんと、楽しい!もつと、早くやればよかったね。」

今年1月4日に加古川プラザホテルで43回生の初めての同窓会を開きました。河田先生、窪田先生、藤原先生、丸山先生、山口先生と16名の生徒が出席。最初は緊張した雰囲気でしたが、すぐに24年前にタイムスリップしたかのように、昔話に花がさきました。

同窓会は、幹事代表の乾杯に始まり、恩師のお言葉、写真撮影とすぐ2時間が過ぎました。2次会には松中生も駆けつけ、112名が出席。3次会も50名以上が参加という盛り上がりようでした。

同窓会後も、加古川大阪、東京の各地でプチ同窓会を開催。また、Facebookのグループ(<http://on.fb.me/Ljcg9Y>)でも近況を報告しあっています。43回生はぜひ、参加してみてください!



年会費納入のお願い

清流会の事業は会員の皆様からの年会費でまかなわれています。近年は会費納入者が通減化の傾向にあります。在校生の支援や同窓生の交流事業を進めるために年会費3,000円の納入をお願いいたします。納入期限は平成28年5月31日になっておりますが、早期の納入にご協力を重ねてお願いいたします。

納入に際しては同封の振込用紙(コンビニ、郵便局、但陽信用金庫)をご利用ください。手続きが初回のみで済み、毎年窓口で振り込む手間が不要になる但陽信用金庫の「定額自動送金サービス」を利用して納入することもできますのでご利用ください。

高47回 卒業20年 心繋がる同窓会

クラス幹事 長谷川(田口)恵子
一般参加 畑(田口)悦子

卒業して初めての同窓会が、昨夏
プラザホテルで開催されました。

8月10日(日)、台風が播州を直撃し
た一日。こんな嵐の日に果たして会
場に集うことができるのか、朝から
皆が同窓会に心を寄せていました。

交通手段を絶たれた人からの欠席
や遅刻の連絡が相次ぐ中、代表幹事
の大森君から開始を30分遅らせると
のスピーチ。そして、当時の音楽・
卒業アルバム映像とともに開会！

乾杯の挨拶に間に合った3年1組
出席番号1番の磯野君は、消防士と
して直前まで防災任務を遂行。やっ
と電車が動きはじめ、大幅に遅れて
かけつけてくれた同級生や恩師。開
始から様々なドラマがありました。

12名の先生方を含め、総勢150名が
再会し、たくさん笑いの声が充ちる
会場で心を繋ぐことができました。

3年時から1年時クラス席への移
動で、また大歓声！あえて1年時の
クラス名簿を出さず、記憶と言葉掛
けを頼りに席替えをする企画でした。
最後の集合写真は、皆が肩を寄せ
て笑った、最高の記念品です！

個人的な話になりますが、担任の
福永先生の示唆に充ちた一言の御蔭
で進路が広がり、今の自分の仕事に
繋げられました。そのお礼を20年を
経てようやくお伝えすることができ
幸せでした。

満ち足りた笑顔溢れる同窓の
集いし夜に満月浮かぶ (恵)

クラスメイトに加え、

妹の友人とも仲良くなれ
た高校時代。卒業20年で
の同窓会では、妹を通じ
て幹事さんたちの熱意を
身近に感じ、感動！双子
つて得だなあと実感しま
した。

台風の中、会場には久
しぶりの同級生や恩師の
笑顔。食事を取ることに
りも話すことに夢中の入
多数。懐かしの校歌斉唱
時間が止まったような心
と時でした。かつての生
徒も先生も、みんなそれ
ぞれの人生をがんばって
いる。そう考えるだけで
元気になれます。感謝。

親しみあする心一つに、
また会いましょう！
はたとせの
様々背負った声かさね
校歌は響く
風つよき日に (悦)

次の年次会から本会に寄付をいた
だきました。
特記して感謝申しあげます。
高47回より 36,529円



会員だより

「次の世代に」

杉尾 秀哉 (高28回)

日本の急速な人口減少が止まらな
い。このまま行けば、2060年に日本の
総人口は今の2/3に、2100年には1
/3にまで減少する。

一方で、日本の借金は100兆円を超
え、先進国の中では圧倒的に最悪だ。
手をこまねいていけばいつかは破綻
しかねない。

こうした超少子高齢化社会を象徴
するニュースが最近、国と地方自治
体を震撼させた。2040年には全国1800自
治体の半分が消滅する可能性がある、
というのだ。東高の通学区域でも、
例えば稲美町はこの「消滅可能性都
市」に含まれている。2040年と言え
ばわずか四半世紀後。現在の高校三年
生が43歳の働き盛りの頃になる。

こういう風には書けば日本は「お先
真つ暗」のように思われるかも知れ
ない。

だが、日本は「世界の課題先進国」
だという識者がいる。東京大学の前
総長の小宮山宏さん。小宮山さんに
よれば、日本は戦後様々な問題を突
き付けられ解決してきた「課題解決
力」のある国だという。

今年、戦後70年。日本はあの焼け
野原から奇跡の復興を果たしたが、
その一方で悲惨な公害問題が起きた。
そこから環境技術を磨き、この分野
で日本は世界のトップランナーだ。
次いでやって来たのがオイルショック



ク。日本は資源がないからダメにな
ると言われたが、今や省エネの分野
でも最先端を走る。そして現在突き
付けられているのが「老人大国」と
いう課題。世界中で高齢化が進む中、
日本が他国に先駆けて先にこの課題
を克服してしまえば、日本の将来は
決して暗くない。
それを担うのが今の高校生たち若
い世代である。確かに難問ではある
が、日本は個の力を強めて克服する
しかない。そのためにも教育は何よ
り重要だ。今から50年、100年先を見
据えて、彼ら「次の世代」がこの国
に生まれてよかつたと思えるような
社会にするために、我々現役世代の
覚悟と知恵が問われている。
(TBSテレビ解説室長)

寺家町商店街の今昔と今後

池澤 文隆（高33回）

清流50号の発行、誠におめでとうございます。このような記念すべき号への寄稿の機会を頂いたこと心から感謝致します。

今回頂いたお題は「商店街の今と今後」に関連してということですので、私の店のある寺家町商店街のことを書かせて頂きます。

旧西国街道上にある寺家町商店街。その歴史は古く、莊園時代にまで遡り、江戸時代には「加古川宿」と呼ばれ、宿場町として栄えました。明治32年にニッケ加古川工場が出来、商店街は女工さんたちで大いに賑わいました。しかしその後ニッケ加古川工場の閉鎖や相次ぐ大型店の進出など、商店街を取り巻く環境の変化

から店舗数が激減し、非常に厳しい状況下に置かれています。

かつての賑わいを知る人は今の商店街を非常に寂しく感じられると思います。

更に「寺家町周辺地区防災街区整備事業」として駅前17階建のマンション等の工事が進められており新たな変化に直面しています。

また現在ニッケ加古川工場跡に新加古川市民病院も建設中ですが、これらの変化を機に街に良い流れが生まれることを願っています。

そんな中、寺家町商店街では地域に根ざした商店街として地域と一体となつて街を盛り上げる取り組みをしています。明治時代から始まった年末の「せいもん払い」は現在も続いており、大阪万博の年から始まった土曜夜市は今年で第46回目の開催

を予定しています。

ここ数年は地元出身のリーダーが主宰するジャズのフルバンドや地元グループが夏の夜を大いに盛り上げてくれています。去年の「せいもん払い」では東高出身で神戸大学のチンドンサークルに所属する後輩が商店街を大いに賑わせ、盛り上げてくれました。そういう繋がりこそが商店街の魅力であり、地域を繋ぐ役割を果たすことが商店街の使命だと思

います。新しいものにはない魅力「懐かしい」、「ほっとする」そんな穏やかでやさしい空気が商店街にはあると思うのです。

実は小生、今年4月に発売された「かこ・スタイル2」という「加古川本」の取材ボランティアに参加して、商店街のこと、寺家町のことを書かせて頂きました。最近は少しさ

ぼり気味ですが「加古川写真散歩」というブログでもわが町加古川の身近な情報をお伝えしています。無いものを望むのではなく、今あるものに光をあて、大切にしたいと思えます。光があたりさえすればキラツと光る素敵なものが加古川にはたくさんあるんです！

普段は少し寂しくなつてしまった寺家町商店街ですが土曜夜市の日はとても盛り上がります！すっかり夏の風物詩となつた寺家町屋台村コソサートJJF2015 (Jikemachi Jazz Festival 2015) には是非お出掛け下さい。むちゃくちゃ楽しいですよ！缶ビール片手にスウィング、SWING!!! (有限会社 ライオン屋本店)



「深層にこそ、真相がある」

小西 美穂（高40回）



現在、私はBS日テレの「深層NEWS」(月、金、夜10時)でキャスターをつとめています。1時間1テーマの生放送。時のキーパーソンをゲストにお迎えして、政治、経済から暮らしまで、今のテーマを深く掘り下げる報道番組です。

番組は2013年秋にスタートしましたが、ゲストに安倍晋三総理大臣、石原慎太郎氏、宇宙飛行士の山崎直子さん、巨人軍原辰徳監督、歌舞伎俳優の松本幸四郎さんなど、たくさん政治家や著名人、有識者をお迎えしてきました。4月末でのべ747人ものぼつています。私は23年間、報道記者をしてきましたが、最前線で活躍する方々に毎晩インタビューできるのは、記者としての醍醐味です。

緊張の連続ですが、とてもやりがいを感じています。

テーマは多種多様です。ことしは戦後70年の節目でもあり、歴史問題や中国、韓国との外交問題を積極的にとりあげています。国会会の最大のテーマである安全保障法制も数多く扱ってきました。ときに与野党の議員で口角飛ばばす議論になることもあります(司会の私はハラハラしてしましますが...)。

討論番組のキャスターとして感じるのは、いま、視聴者のみなさんが欲しがっているのは「ニュースの判断材料」だということです。『イエスかノーか』ではなく、どちらにも属さない多様な意見があつていい。ひとつのニュースを、本当にそうな

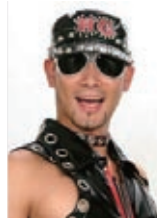
のか、別の視点からみるとどうなのか、できるかぎり多くの角度から論点を明らかにし、視聴者に判断材料を提供することが、自分の与えられた使命だと感じています。

難解なテーマが多いので、わかりやすく議論を仕切るのも、司会者である私の重要な役割です。限られた時間内で、論点整理して仕切るには自身の勉強が不可欠です。毎日ゲストの著書や資料を読み込み、取材して番組にのぞんでいます。でも情報を「得る」だけではだめで、すぐに忘れてしまいます。それがどういう意味をもち、どんな影響を及ぼしそうなのか、記事を頭に入れてから再度考えてみるようにしています。そうすることで情報は身についています。

最後に、私なりの「聞く力」とは、あなたが話をきちんときいていますよ」と私が意思表示をすることは、とても重要だと思っています。準備したメモや段取りに頼りたくなくなるのがつとがまん。ゲストの目をみて、うなずき、向き合う姿勢をとる。目から心の中に入り込んでいくぐらいの気持ちです。

上手くできた!という回は放送終了後、なぜかすぐお腹が空いていきます。(日本テレビキャスター)

「運命フォー！」



住谷 正樹 (高46回)

同じ時期に

高校生活を送っていた方が外ほとんどがそうだとはい

いますが、はじめまして兵庫県立加古川東高等学校46回生レイザーモンHGです。それではまず最初にこの文章を読んでいただいている皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまし

「かことんフォー!!」

卒業して約20年経った今、こうして清流会の会フォー(報)誌に寄稿させていただけることを大変嬉しく思っております。ありがとうございます！

思い返すと、高校生活で培ったことが今の芸人としての礎となつているなあと感じます。

当時からお笑いは大好きで伝説のグループ「吉本印天然素材」(雨上がり決死隊、FUJIWARA、バッファロー吾郎、へびいちご、チュパチャップス、へびいちご 敬称略)の大ファンでした。深夜番組を録画して次の日観てさらに次の日にクラスで友達とその話題で盛り上がるという日々、懐かしいです。その友達とコンビを組んで初めてコントを文化祭で披露したのも高校時代なので、実質のデビューはこの時になるんですかね。

コンビ名は「ダイナマイト不健康」。当時の僕なりの緊張と緩和、いやなかなかどうしていいコンビ名！そして、ネタがかなりウケた記憶があり、

その時具体的にお笑い芸人になりたいたいというのなかったですが、この快感は体に染み付いていたと思います。

そして、皆さんご存知伝説のギャグ「フォー」なのですが、ある日高校時代の写真を見返していてビックリ！あの「フォー」の原型となるポーズを決めて写っていたのです。

なので、芸人になるきっかけもギャグのきっかけも全て高校生活から生まれていたので。

現在は、キャラクター芸だけでなく漫才の楽しさに魅せられネタ作り

に励んでいます。だいぶ遅いですが、かことん魂を胸にこれからも精進してまいります。皆さん応援よろしくお祈りします!!

(よしもとクリエイティブエージェンシー所属レイザーモンHG芸人)

体育館大型スクリーン 母校に寄付される

匿名希望の会員(高3)の方から、母校の教育に役立つものを何か寄贈したいというお話をいただき、清流会、学校とで協議した結果、体育館のステージ上に大型スクリーンを設置していただきました。

新しいスクリーンは明るく、見やすく、早速5月の文化部発表会で活用されました。今後、講演会等の学校行事や中学生対象の学校説明会等でも威力を発揮してくれることが期待されます。(学校長)



日々生徒と顔に汗した素晴らしい10年

川勝 和哉 (高34回)

加古川東高校に赴任した11年前、正門の前で身震いしたことを鮮明に覚えています。私が勤務した時期はSSH指定や、ジェネラルサイエンスコースから理数科への改編など、学校全体が大変革の時期でした。加古川東高校には、十年先を見通してロードマップを作る優れた能力があります。毎日将来について議論し、鍵となるべく新制地学部を立ち上げることにしました。これを礎に、新しい種を蒔く思いで、様々な事業に取り組みしました。

自然科学の本当の面白さは、日々の苦しい努力なしには得られません。これは私の教育全般に共通する考えです。身近なテーマを取り上げ、「で

きる理由をひとつ見つけて努力しよう」を地学部のモットーとしました。オリジナリティーとプライオリティーを重視し、学術研究を行うことを目指しました。当初は「地学部って何？」と暗い印象をもたれていました。生徒の不断の努力で、すぐに文部科学省認定の論文コンテストや専門学会で高い評価を得るようになりました。地元産業と結びついて特許を取得し、竜山石室内壁塗装剤の開発にも成功しました。指導者として一番うれいしいのは、生徒が文部科学大臣賞を得たときではなく、卒業時に「地学部に入つてよかった」と笑ってくれることでした。際だつて仮説演繹法の思考力やプレゼンテーション能力で、卒業後には世界で活躍する人材となっています。SSHと同時に立ち上げた「科学倫理」の授業での議論も、生徒の深い思考力の証でした。

昨年度、異動とともに西脇高校でも地学部を立ち上げ、複数の大学と連携し、各種の助成を受けて、現在

45名の部員で毎日活動しています。科学教育類型の生徒の課題研究も始めました。当初「研究をしよう」という呼びかけに消極的だった生徒たちも、今では早く調査に行こう、学会で発表したい、とこれまで考えられなかったほど積極的です。創部初年(昨年度)で、文部科学省認定大会や専門学会で全国上位入賞を果たすまでに急成長しました。

加古川東高校勤務時代にSSH校での科学研究指導で野依科学賞を受賞しましたが、西脇高校での実践応用で、昨年度再び受賞しました。現在の私を育ててくれたのは、加古川東高校の生徒たちです。彼らに感謝しながら、そろそろ体力的に厳しいのですが、西脇の地にも科学的思考力と自己表現の種を蒔き育てよう、と、顔に汗して頑張っています。(県立西脇高等学校教諭)



野依科学奨励賞授賞式で野依良治博士と筆者



西脇高校地学部の生徒と筆者

役員一覽

平成27年5月15日現在

元会長 北野泰成(中13)
 前会長 木下正一(中18)
 会長 山口勝英(高15)
 副会長 大西壯司(高21)
 土屋光世(高27)
 大西淳滋郎(高29)
 吉田実盛(高32)
 細川恵美子(高37)
 鹿間 聖(高41)
 会計 内藤三恵(高12)
 三宅隆宏(高14)
 会計監査 十倉茂明(高9)
 泉 正紀(高25)
 書記 岩瀬克子(高31)
 黒田昌宏(高37)
 校内幹事 谷 正人(高26)
 井上浩義(高30)
 松下博昭(高35)
 校長 安本 直
 事務長 森 俊雄

総務委員 北野泰成(中13)
 畑谷 芋一(高3)
 籠谷 紘義(高13)
 松崎 正俊(高14)
 岡本 久美子(高17)
 大庫 俊介(高19)
 仲上 常幸(高19)

宮宅 勇二(高24)
 北野 砂恵子(高29)
 ◎鈴木 利信(高31)
 宮本 順子(高31)
 小林 尚美(高32)
 佐野 さとみ(高33)
 榊 真由美(高33)
 ○坂田 亨(高35)
 小牧 清彦(高41)
 川崎 万理子(高41)
 藤本 准一(高43)
 ○山本 鉄平(高45)

文化委員 西村 義富(高第2)
 ○菅原 啓文(高5)
 穴田 滋子(高7)
 福田 恒夫(高10)
 菅野 正子(高13)
 ○浅原 重利(高18)
 ◎岩坂 純一郎(高20)
 川西 幹雄(高20)
 酒見 真一(高21)
 網谷 純子(高21)
 久保 一人(高22)
 過能 尚子(高24)
 下村 浩司(高26)
 松下 正明(高29)
 佐野 裕美(高30)

西川 陽子(高30)
 ○末澤 正臣(高30)
 大竹 恭子(高30)
 玉野 ますみ(高30)
 小林 直樹(高33)
 岡崎 美和子(高33)
 阿野 康子(高39)

体育委員 田中 晶子(高8)
 能田 達三(高12)
 大西 一彦(高14)
 大西 信良(高15)
 清田 康之(高16)
 山本 武(高17)
 中村 泰通(高18)
 藤原 真理子(高20)
 ◎多木 有一(高21)
 廣田 泰博(高21)
 松澤 昭夫(高21)
 石堂 求(高22)
 高松 志門(高22)
 福岡 照文(高23)
 梅谷 誠一(高24)
 ○三村 浩之(高24)
 ○坂下 雅一(高29)
 花柴 和也(高31)
 黒田 昌宏(高37)

(◎は各委員会の委員長)
 (○は副委員長)

<地域支部>

●東京支部

松井昭憲(高30回)

横浜市

●奈良支部

板倉敬則(高18回)

奈良市

●大阪支部

山本俊輔(高25回)

加古郡稲美町

●稲美支部

福田恒夫(高10回)

加古郡稲美町

●明石支部

森本真一(高21回)

明石市

●姫路支部

平田建喜(高19回)

高砂市

<職域支部>

●県庁支部

藤田隆司(高25回)

明石市

●神戸教職員支部

松井勝美(高24回)

明石市



年次幹事一覽

平成27年5月15日現在

小村修次(中5)	籠谷紘義(高13)	森本幸吉(高28)	田中ことみ(高43)	田中章浩(高56)
糟谷一郎(中8)	堀井扶佐子(高13)	城伸幸(高29)	掛川佳世子(高43)	東達也(高57)
井澤一勝(中13)	菅野正子(高13)	新田順子(高29)	宮本雅之(高43)	大滝掬(高57)
北野泰成(中13)	竹内和弘(高14)	松下正明(高29)	井上智史(高44)	大前田瑠依(高57)
岩本泰三(中14)	松崎正俊(高14)	西岡拓代(高30)	岡本賢裕(高44)	藤村泰仁(高58)
武田秀男(中14)	三宅隆宏(高14)	末澤正臣(高30)	筒井利典(高44)	平郡陽子(高58)
長谷川和夫(中17)	住友義男(高15)	佐伯明子(高31)	高塚香織(高45)	馬谷昌代(高58)
神吉稔(中18)	福田嘉子(高15)	鈴木利信(高31)	田中かおり(高45)	稲岡孝介(高58)
高倉幸七(中18)	水埜安寛(高15)	玉奥満(高31)	原田かおり(高45)	大西賞尚(高59)
粕谷衛(中19・20)	山崎朝美(高15)	川口和代(高31)	北條俊正(高45)	籠谷真奈(高59)
釜江侃(中19・20)	山口勝英(高15)	沼田勝彦(高31)	正木一行(高45)	島津高英(高59)
金川俊成(高1)	大下一興(高16)	劉美鈴(高32)	山本鉄平(高45)	城麻衣子(高59)
永井万介(高2)	清田康之(高16)	大西賞典(高32)	岸本敏英(高46)	井上紗和子(高60)
釜谷研造(高第2)	小林弘子(高16)	岸本真弓(高32)	中塚佳子(高46)	尾上馨(高60)
畑谷芊一(高3)	田中靖子(高16)	林和也(高32)	松林勲(高46)	松尾弘毅(高60)
長田和久(高第3)	田村明(高16)	新濱大平(高33)	大森達也(高47)	山本明日美(高60)
藤田勇(高4)	松尾勝良(高16)	沢田裕美子(高33)	吉村博隆(高47)	木村拓也(高61)
田中愛子(高4)	小山美知代(高16)	成定淳子(高34)	赤江泰介(高48)	高橋亜希(高61)
鷺澤素子(高5)	前田干城(高17)	後藤昌之(高34)	待鳥繁隆(高48)	豊田成隆(高61)
内山慶人(高5)	三宅英璋(高17)	水埜正彦(高34)	本岡文亜(高48)	原佳織(高61)
渋谷春之輔(高5)	森岡史朗(高17)	釜谷泰造(高35)	安田薫(高49)	杉田耕介(高62)
菅原啓文(高5)	永井一(高18)	小山三佳(高35)	魚屋由美(高49)	穠山隼也(高62)
石原謙一(高6)	清水賢二(高19)	加古武史(高36)	藤原良(高49)	三木原良輔(高62)
坂田雅文(高6)	仲上常幸(高19)	野上稔(高36)	妙中いつか(高50)	來住翔太(高62)
西海郁雄(高6)	藤原真理子(高20)	藤城奈律枝(高36)	北江直樹(高50)	蓬萊翔吾(高63)
西谷正(高6)	岩坂純一郎(高20)	小嶋志之(高36)	家氏純子(高50)	西田早織(高63)
立花幸子(高7)	北条雅紀(高21)	黒田昌宏(高37)	森本龍介(高50)	新田薫(高63)
藤原義昭(高7)	石堂求(高22)	新井睦美(高37)	河田直子(高51)	菅藤理也(高64)
穴田滋子(高7)	山崎敏美(高22)	長谷川哲也(高37)	澁谷恒一(高51)	松本悠希(高64)
前田正(高8)	岩本善典(高23)	初瀬富美子(高38)	長澤達朗(高51)	佐伯直澄(高64)
吉田洋子(高8)	金川種弘(高23)	田中勇一(高38)	原敏生(高51)	野田葵(高64)
磯野達(高9)	林郁朗(高23)	片山憲一(高38)	小阪田泰子(高52)	永井翔龍(高65)
十倉茂明(高9)	小林達子(高24)	松井亜希子(高39)	荻野心平(高52)	正川みのり(高65)
上田佳子(高9)	安田しをり(高24)	別所眞(高39)	柏井康彦(高52)	見塚圭一(高65)
内藤美栄子(高9)	三村浩之(高24)	三谷佳裕(高39)	青森郁子(高52)	米田奈生(高65)
大辻利弘(高10)	山本普子(高25)	頼洋理子(高40)	川田直寛(高53)	千歳吾朗(高66)
神吉賢一(高10)	衣笠仁浩(高25)	西川隆博(高40)	中山智裕(高53)	伊賀優花(高66)
長谷川好一(高10)	小林孝子(高25)	堀井信明(高40)	堰本愛(高53)	木村雄亮(高66)
福田恒夫(高10)	澤田敏郎(高25)	前田恵美(高40)	大江美穂(高54)	津村海謡(高66)
内田明美(高11)	下村浩司(高26)	米今智子(高41)	桑野浩(高54)	池野和之介(高67)
後藤太原磨(高11)	畠房生(高26)	澤山和博(高41)	西田寛(高54)	中村遥佳(高67)
土師さか糸(高11)	本岡茂範(高26)	羽沢哲朗(高41)	砂川祐子(高55)	三好菜月(高67)
原雅子(高11)	浅場知洋(高27)	矢能ますみ(高41)	中原初実(高55)	坂本晴輝(高67)
山口久子(高12)	上野均(高27)	生田聡(高42)	井上祐輔(高55)	
阿江縫子(高12)	網干美保(高27)	今井甲二郎(高42)	大内あゆみ(高56)	
長谷川募(高12)	井岡徳多郎(高28)	岸本佳恵(高42)	庄司博美(高56)	
松田欣治(高12)	松本高亮(高28)	吉井妙(高42)	八木勇磨(高56)	



2015年度入試概況

今年度のセンター試験は1月17・18日の2日間にわたり、全国690の試験会場で実施された。数学と理科では新課程科目に加えて、既卒生用に旧課程科目が出題されたほか、理科では科目変更に伴う実施方法の変更があった。試験の実施は複雑化したものの、全国的には大きな混乱もなく終了した。

志願者数は55万9132人(前年比79.7%)、受験者数は53万537人(前年比79.9%)といずれも前年から大きな変化はなかった。ただし、大学入試センターが発表した志願者数の現卒別の内訳をみると、現役生が18歳人口の増加に伴い、昨年から約1万2千人増加(前年比102.7%)した一方、既卒生は約1万3千人減少(前年比88.2%)した。既卒生の減少は今春入試のトピックである。

国立難関10大学の志願状況は、前期日程は736人減(前年比99%)となった。志願者の減少率は、「その他大」の方が高く、これら難関大を敬遠した様子うかがえなかった。大別に見ると、東京大が前年並みの志願者数を維持した一方、近年高い人気を示していた京都大でやや減少率が高くなった。志願者の増加率が高かったのが、名古屋大と大阪大である。名古屋大は工学部が志願者15%増と高い人気を示した。ここ数年志願者が減少していた反動に加え、同大関係者が昨秋ノーベル賞を受賞

したことも人気上昇を後押ししたのではなからうか。

次に本校の合格状況をみると、東京大1人(現役0人)、京都大17人(14人)、大阪26人(24人)、神戸24人(22人)など、難関大への合格者を出した。前期試験で不調だった現役生徒の中で、後期試験まで粘って合格した生徒が多かった。また難関である医学部医学科では、現役で2人(神戸、大阪市立大)が合格した。

私立大学の一般入試の志願者数は全体で前年比10%とわずかに増加した。国立大では2%ほど志願者が減少しているのは対照的である。今春は新課程初年度入試であったが、センター試験では理科で科目負担を感じた変更が行われた。主に文系生が受験する理科①では「物理」「化学」

「生物」「地学」から2分野の受験が必要となり、理系生の多くが受験する理科②では昨年までの理科Iに比べ出題範囲が広がった。こうした変更からセンター試験が必須である国立大を敬遠して私立大を手がたく受験するといった動きが生じていると思われる。また、今春入試も一度の試験で複数学部・学科への出願を認める、同時に複数方式に出願すると受験料を割引くといった一人あたりの出願校数を増やす仕

組みを導入する大学が増加していることも、私立大の総志願者数増加につながっている。入試方式別にみると、一般方式で前年比102%、センター方式で同99%とセンター方式でわずかながら減少している。センター方式志願者が減少するのはここ10年で初めてである。

本校で受験者数の多い「関関同立」における合格者についてみると、同志社41人(現役25人)、立命館70人(46人)、関学136人(110人)、関大61人(48人)であった。また関東の大学では、慶応大2人(0人)、早稲田大4人(3人)であった。詳しくは本校のホームページをご覧ください。

67回生 進路状況

	進学						予備校等	計
	4年制大学			準大	短大	専門校		
	国立	公立	私立					
男	89	26	20	1		1	48	185
女	64	29	49			2	30	174
総計	153	55	69	1	0	3	78	359

最近卒業生大学合格状況(延べ人数)

	平成27年3月		平成26年3月		平成25年3月		平成24年3月									
	67回生		66回生		65回生		64回生									
	男	女	男	女	男	女	男	女								
国立四年制大学	92	66	27	6	65	57	46	21	52	43	38	9	71	51	34	16
公立四年制大学	32	29	13	3	23	33	8	7	18	25	6	5	23	23	8	5
私立四年制大学	124	281	90	48	110	261	187	99	70	213	112	45	116	251	97	63
私立短期大学	0	5	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0
準大学	1	0	4	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
計	249	381	134	57	200	353	241	127	140	285	156	59	211	326	140	84
	630		191		553		368		425		215		537		224	

26年度 部活動の活躍

文化部も運動部も、文武両道を標榜するにふさわしい成果をあげています。

まずは文化部から。



7月27日、28日に茨城で開催された第38回全国高等学校総合文化祭将棋部門個人戦に鍋谷太朗君が出場しました。小1から将棋を始めた鍋谷君は、現在加古川将棋クラブにも所属し、日々腕を磨いています。高1での全国大会出場への快挙。目標は「まず一勝」

でしたが、全国から100名以上の選手が出場する中、予選リーグを全勝で通過、本戦へと出場し、全国ベスト16入りを果たしました。

放送部は、7月21日、24日に東京で行われた、第61回NHK杯全国放送コンテストのラジオドキュメント部門(制作代表 奥田木の実さん)に出場しました。少数精鋭ながらも各種学校行事ではアナウンス・放送設備の設置等、大活躍中の放送部。OBより部員募集のポスター作製やコーチをしてもらい大会に向けて頑張ってきました。結果、準決勝に進出し制作奨励賞を受賞しました。

11月8日、第34回近畿高等学校総合文化祭福井大会の書道部門に、岩城香菜子さんが出場しました。

地学部は、昨年度も各種の学会等に参加し、数々の賞を獲得しました。

日本地球惑星科学連合 奨励賞・努力賞/日本地質学会 ポスター発表

表奨励賞/日本物理学会 ポスター発表奨励賞 など。

この他にも、「水垢の謎」高校生が解明 加古川東高校地学部が実証の見出しで、神戸新聞に研究の経過が掲載されました。流し台や浴槽などにできる水垢に水がたまりやすくなる現象のメカニズムを突き止めようというもの。部員達は北海道への修学旅行から帰着した翌日に、実験のため、再度北海道に出かけるという強行日程をこなし、無事検証を終えました。この研究の成果は、実験班長の阿江俊明君によると、宇宙空間での生活改善に応用できる可能性があるとのこと。さらに、一貫して取り組んできた竜山石の研究についても、従来、廃棄物であった竜山石の粉末を室内塗装剤として商品化する道を開いたと神戸新聞で紹介されました。

続いて運動部
6月21日、南あわじ市で開催された、第17回兵庫県ビーチバレーボール高等学校選手権大会で、立宅三和・大林李佳ペアが7位入賞を果たし、近畿大会に出場しました。

陸上競技部は昨年度も健闘。6月19日、22日に京都西京極陸上競技場で開催された近畿インターハイで、4×400mRで8位入賞。また、9月19日、21日に大阪で開催された、近畿高校ユース選手権大会では、男子110mH 5位・男子100m 6位・男子走高跳 4位という素晴らしい成績を残しました。

ソフトテニス部男子は、7月21日、奈良県橿原公苑明日香庭球場で行われた、近畿大会団体戦に出場しました。

部活動としてはありませんが、トピックをいくつか紹介します。

○ 4月24日(木) 台湾より国立台中第一高級中学校・国立台中女子高級中学校の生徒が来校しました。短い時間でしたが、お互いの学校紹介・授業見学・部活動体験(書道部・邦楽部・茶道部・柔道部・剣道部)と多種多様な交流プログラムを行いました。



○ 4月28日～5月2日、横浜市のパシフィコ横浜で、日本地球惑星科学連合2014年大会が開かれました。29日の午後、高校生によるポスター発表が行われ、本校生が「都市中心部におけるAEDの空間配置を發表しました。」の発表を行いました。

この発表について、『月刊地理』6月号の「地理的理の切り口」のコーナーで取り上げられました。

○ 8月23日、「第24回県学生ピアノコンクール」の本選が行われ、別所亮真君が、高校生部門で最優秀賞を受賞しました。これを受けて、10月の「創立90周年記念式典」でピアノ伴奏をしてもらい、その腕前を披露してもらいました。普段は吹奏楽部に所属し、サックスを担当しています。

平成26年度 清流会表彰者

1. 学校内での活動
 (ア) 部活動において優秀な成績を収めた者 (計 36名)
 ① 運動部：県大会3位以上の個人またはチーム (エントリー人数分)

陸上競技部 (6名)

組	氏名	顕彰内容
3-8	高柳 俊隆	第7回日本ユース陸上競技選手権大会 男子 800m優勝
3-7	坂本 晴輝	第45回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 1年男子400m優勝
3-7	徳永 淳	第65回兵庫高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 男子4×400mR 優勝
3-8	小山 一志	第65回兵庫高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 男子4×400mR 優勝
3-8	吉川 明希	第65回兵庫高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 2年女子 100m 第2位
3-9	井谷 寛	第67回兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会 男子 棒高跳 第3位

② 文化部：運動部に準ずる

地学部 (14名)

組	氏名	顕彰内容
3-1	五百井悠一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・第76回日本植物学会高校生部門 優秀賞 ・2012年日本地質学会小・中・高校生部門 優秀賞 ・日本物理学会第9回Jr.セッション 奨励賞 ・第8回日本環境化学会高校生部門 優秀賞 ・筑波大学「科学の芽」 奨励賞 ・神奈川大学全国高校生科学論文 努力賞 ・Jr.農芸化学会 銀賞 ・2013年岡山大学大学院研究発表会 ポスター部門優秀賞
3-1	石田 薫	
3-1	戎 秀梧	
3-1	川勝 太郎	
3-1	長谷川真緒	
3-1	平岩 尚樹	
3-1	藤原 奨	
3-1	増井 瑞	
3-1	若園 怜子	
3-2	北野 彩華	
3-4	増田 崇利	
3-8	荒谷 優太	
3-8	廣瀬 友佳	
3-9	大坪 榛名	
3-1	松本 慎一	

理科科課題研究 (5名)

組	氏名	顕彰内容
3-1	梶原 智明	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回日本環境化学会高校生部門 優秀賞 ・神奈川大学全国高校生科学論文 努力賞 ・2014年岡山大学大学院研究発表会 口頭発表部門最優秀賞
3-1	塩平 真士	
3-1	堀 洋平	
3-1	松本 葵	
3-1	松本 慎一	

書道部 (2名)

組	氏名	顕彰内容
3-1	長谷川萌慧	全国高校総合文化祭 出品
3-5	岩城香菜子	近畿高校総合文化祭 推薦賞

演劇部 (8名)

組	氏名	顕彰内容
3-1	井黒香奈子	県高校総合文化祭 演劇部門発表会 優秀賞
3-1	田口真理子	
3-1	山本 沙紀	
3-4	水杉 歩	
3-5	三上 澁史	
3-8	若田 直樹	
3-9	荒田 樹李	
3-9	猿渡 未菜	

2. 学校外での活動
 (オ) その他 (計 1名)

書道部

組	氏名	顕彰内容
3-1	石田 薫	第7回「青春のエッセー阿部次郎記念賞」課題作品の部最優秀賞

計 36名。

母校の人事異動

■ 退職された方

事務局長 藤田 和宏
 滝川第二高等学校 事務局長へ

■ 離任された方々

教頭 荻谷 直登
 県立大附属高等学校(教頭)へ

教諭 藤原千佳子
 地歴公民 小野高等学校へ

臨時実習助手 堀 由登里
 滝川第二中学・高校

(臨時実習助手)へ

事務職員 成岡由利絵
 県教委学事課 事務職員へ

臨時校務員 穂原 一輝
 明石西高等学校(臨時校務員)へ

■ 着任された方々

教頭 安岡 久志
 神大附属中等教育学校 副校長より

事務局長 森 俊雄
 北須磨高等学校 事務局長より

主幹教諭 青山 禎尚
 地歴公民 教育研修所

主任指導主事より

臨時実習助手 三林裕佳子
 滝川第二中・高校嘱託図書事務より

主査 野波 理恵
 明石北高等学校 主査より

臨時校務員 北野 義人
 姫路しらすぎ特別支援学校

臨時校務員より